

日本地図の第一歩は吉岡から

吉岡の伊能忠敬北海道測量開始記念公園に伊能忠敬の銅像が建設されてから、今年で5年が経ちました。今回は、福島町ゆかりの偉人伊能忠敬について改めてご紹介したいと思います。

伊能忠敬測量隊 吉岡上陸

伊能忠敬は、江戸時代に全国を測量して、日本で初めて科学的な実測による日本地図「大日本沿海輿地全図（えんかいよちぜんず）」を作り上げたことで有名な人物です。

一八〇〇年七月十日（寛政十二年五月十九日）、伊能忠敬測量隊六人を乗せた船が吉岡川に到着しました。当初の行き先は箱館（現在の函館）だったのですが、風の影響で現在の福島町の吉岡川付近に運ばれたのです。彼らは、その翌日から蝦夷地（現在の北海道）の測量を開始します。日本地図作りの第一歩は、こうして吉岡から踏み出されました。

伊能忠敬らが吉岡に上陸したときの様子は、伊能忠敬が息子に宛てた書状や、日記などの国宝に記されています。

①伊能忠敬の息子宛ての書状

伊能忠敬が長男の景敬（かげたか）に宛てた手紙には、北海道上陸地は「吉岡と申す川岸」と記されています。当時、吉岡川の入江は深く、小舟は今より上流へのぼることができたようです。測量隊は、吉岡で一泊しました。

①伊能忠敬が息子（景敬）宛てに書いた書状

松前より上^かみ三里吉岡と申す川岸へ
着^{それ}船夫に上り一夜宿候

【説】 松前より三里上方にある吉岡という川の川岸へ船を着けそれの上陸し一夜宿泊しました
※寛政十二年五月二十三日（新暦七月十四日）の書状

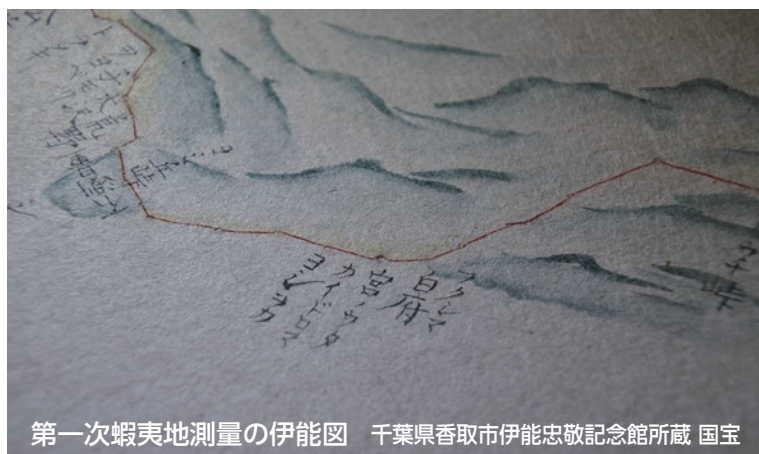
②忠敬先生日記

吉岡に到着した測量隊は箱館まで船で行こうと考え、翌日の朝十時頃まで吉岡に滞在し、風向きが変わるのを待ちました。しかし、なかなか風向きが変わらないので、仕方なく陸路を測量しながら進むことにします。日記には、吉岡から「陸地一里余（いちりあまり）福島」へ行くと記録されています。この記載が、伊能忠敬が北海道で実施した一番はじめの測量の記録といえるでしょう。この時に測量された「一里余」は、現在でいう吉岡川付近から福島町大神宮までの間だと考えられています。

②忠敬先生日記

同廿日朝四ツ頃迄風待致候へ共 同風にて
致方無之陸地一里余^半福島へ行

【訳】 五月二十日（新暦七月十日）朝十時ころまで風向きが変わるのを待っていたが、同じ（東風）なので仕方なく陸地を一里ほど（測量し）福島へ行く



第一次蝦夷地測量の伊能図 千葉県香取市伊能忠敬記念館所蔵 国宝